

リハビリテーション部

【スタッフ】

医師	飯田 圭一郎									
理学療法士	安部 裕美子	長谷 知枝	水野 博彰	鐘井 光明	小林 健治					
	山田 景子	白幡 雄大	宮田 辰成	宇都宮 功一	木下 修平					
	梅本 翔	竹永 秀平	月城 一志	伊藤 大地	石村 優人					
	平沼 侑花	安田 絵理奈	阿部 小夏	下郡 明久	伊井 智毅					
	布村 飛龍	宮野 清孝 (～2023.4)			池田 高超 (～2023.9)					
作業療法士	銭本 公子	平佐田 紘子	黒瀬 大貴	本村 厚郎	和田 将平					
	中居 昭博									
言語聴覚士	内田 朋宏	上田 加津子	佐伯 美羽							
助手	山瀬 陽加	大下 夏栄								

【理念】

安心、安全に早期リハビリテーションの充実・促進を図ることにより、早期回復を促し、患者さまの退院・転院の橋渡しが的確にできるよう努める。

【方針】

当部においては、急性期のリハビリテーションの役割を担っていると考え、主として発症間もない患者さま、手術後間もない患者さまを対象とし、積極的にリハビリテーションを実施します。また、退院後の治療継続が必要な患者さまにおいては、外来でのリハビリテーションを実施します。

【重点診療方針】

- ・ 早期リハビリテーションの充実・促進
- ・ 患者さまの満足度向上
- ・ チーム医療の充実

【令和5年度 重点目標】

「患者さまの状態に応じて、必要なリハビリテーションを安心・安全のもと、適切に実施する」

- ・ 患者さまとともに具体的な計画を立て治療の進捗や目標の達成度を共有する
- ・ 効果を客観的に評価し、計画の見直しにつなげる
- ・ 接遇レベルの向上
- ・ 医学管理料算定率の向上

【施設基準】

- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ がん患者リハビリテーション料

【主な対象疾患】

- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
骨折・外傷・脊椎脊髄疾患・関節疾患・関節リウマチ・切断など
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
脳出血・くも膜下出血・脳梗塞・頭部外傷など
- ・ 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群（腎不全・腎盂腎炎・胆のう炎・脱水など）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
慢性閉塞性肺疾患・喘息・肺炎など
- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
心筋梗塞・心不全・心大血管疾患術後など
- ・ がん患者リハビリテーション料
各種がん疾患・手術後・化学療法や放射線による治療中・治療後など

【概要】

令和5年度は、4月に理学療法士が2名入職、1名退職、言語聴覚士が1名入職、9月に理学療法士が1名退職し、理学療法士21名、作業療法士6名、言語聴覚士3名、助手2名の計32名の体制で、当院の基本方針・当部の重点診療方針・令和5年度の重点目標に基づき、様々な疾患や外傷に伴って発生した障害をもつ患者さまに対して、発症後早期または手術後早期よりリハビリテーションを実施しました。

今年度は、「患者さまの状態に応じて、必要なりハビリテーションを安心・安全のもと、適切に実施する」を目標に掲げ、当院のリハビリテーションを受けて良かったと言っただけできるよう、質の高い治療の提供に努めました。また、新たに、リハビリテーション部の行動指針として7項目を策定し、その指針に基づき、業務に取り組みました。

診療実績に関しては、新型コロナウイルス感染症発生前や前年度と比較して、リハビリテーション処方患者さまの総数、リハビリテーション実施延べ単位数、ともに増加となりました。

診療の柱である機能回復、廃用予防、退院支援等については、多職種で積極的に実施し、必要なりハビリテーションを安全・確実に提供できたと考えています。

診療業務においては、業務の質を高めるために、日々の症例への介入から臨床における疑問や興味を追求する研究的視点を養うことも重要と考え、研究推進班を設置しています。部内の研究を奨励し、研究方法や発表方法等を共に学習しています。学会発表件数が少し

ずつ増え、診療業務の質の向上につながってきています。

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更となり、感染対策が緩やかとなりましたが、必要に応じて適切な感染対策を引き続き行い、リハビリテーションを実施しました。面会制限緩和に伴い良かった点は、ご家族の見学が可能となったことで、経過を直接報告する機会ができたことです。

診療業務以外においても、我々の専門性を広く活かす目的で転倒予防班と腰痛予防班を設置し、院内の委員会、各部署などと協働して様々な取り組みを行っています。取り組みの一環として、転倒予防班は医療安全対策室と協働して院内の転倒インシデントレポートの集計・分析を行い、各部署に報告や提案を行いました。また、腰痛予防班は院外に向けて、下関市教育委員会が実施している「下関市生涯学習まちづくり 出前講座」のくらしと健康・福祉分野に講座を提供、依頼に応じて該当地域で講座を開催しています。担当する講座には8件の依頼がありました。どの講座も好評価をいただき、市民の方々の腰痛予防に貢献できたと考えています。

私たちは、感染症流行下において、日常が大きく変化する経験をし、当たり前の日々を過ごすことの大切さを改めて痛感しました。この経験を活かし、これからも急性期の段階から退院後の生活を見据えた積極的なリハビリテーションを実践できるよう努めてまいります。

【治療実績】（令和5年4月～令和6年3月）

1) リハビリテーション処方数

令和5年度、リハビリテーション処方数は3,094件（前年より213件増、増減率は前年度比7.4%増）で、その疾患内訳数は表1に示します。全体数の中での割合は、運動器疾患が40%、脳血管疾患等が9%、廃用症候群が14%、呼吸器疾患が16%、心大血管疾患が10%、がん疾患が11%です。

表1 リハビリテーション処方数（疾患別）

疾患別名	処方数(件)	増減率 (前年度比(%))
運動器	1,230	21.5
脳血管疾患等	287	7.9
廃用症候群	427	-30.9
呼吸器	496	45.9
心大血管疾患	313	12.2
がん疾患	341	-6.8
合計	3,094	7.4

2) リハビリテーション実施延べ単位数

総数は75,209単位（前年より5,811単位増、増減率は前年度比8.4%増）。疾患・外来・入院別の内訳は、表2に示します。療法別の内訳は、表3に示します。

表 2 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（外来・入院別）

疾患別名	外来	増減率 (前年度比(%))	入院	増減率 (前年度比(%))	合計	増減率 (前年度比(%))
運動器	5,894	-15.6	31,185	9.1	37,079	4.2
脳血管疾患等	336	-34.8	14,871	30.9	15,207	28.1
廃用症候群	29	-44.2	4,589	-34.5	4,618	-34.6
呼吸器	52	271.4	9,585	27.0	9,637	27.4
心大血管疾患	512	-11.4	4,553	18.8	5,065	14.8
がん患者	-	-	3,603	23.5	3,603	23.5
合計	6,823	-16.2	68,386	11.6	75,209	8.4

表 3 疾患別リハビリテーション実施延べ単位数（療法別）

疾患別名	理学療法	増減率 (前年度比(%))	作業療法	増減率 (前年度比(%))	言語聴覚療法	増減率 (前年度比(%))
運動器	31,995	7.0	5,084	-10.5	-	-
脳血管疾患等	6,021	35.7	5,269	20.1	3,917	28.5
廃用症候群	4,053	-32.7	185	-64.4	380	-26.1
呼吸器	6,446	34.9	112	-69.6	3,079	27.5
心大血管疾患	4,898	17.9	167	-35.3	-	-
がん患者	3,228	21.5	102	-13.6	273	90.9
合計	56,641	9.0	10,919	-3.6	7,649	25.0

3) 退院患者の自宅復帰率

自宅復帰率は、全体で 72.1%（前年より 2.6%増、増減率は前年度比 3.7%増）。
疾患別の内訳は表 4 に示します。

表 4 疾患別リハビリテーション別 自宅復帰率

疾患別名	自宅復帰率(%)	増減率 (前年度比(%))
運動器	67.1	0.3
脳血管疾患等	42.7	-13.7
廃用症候群	80.7	16.8
呼吸器	69.5	14.5
心大血管疾患	78.9	3.0
がん疾患	93.6	-0.3
平均	72.1	3.7

- 4) 日常生活自立度の改善状況(BI (Barthel Index:バーセルインデックス) 値の変化)
 各疾患において差はありますが、BI 値利得は増えており改善がみられたといえます。

	運動器	脳血管疾患等	廃用症候群	呼吸器	心大血管疾患	がん患者
介入時	36	29	45	36	44	51
退院・転院時	77	59	69	51	75	87

【院外活動】

<スポーツ活動支援>

開催年月	大会名・講座名	
2023.6	第 140 回春季中国地区高等学校野球大会	[サポートスタッフ] 平沼侑花

【業績集】

<発表等>

開催年月	演 題 等	発表者等	学会名等	場所
2023.6	腰痛予防教室	[講師] 平沼侑花 鐘井光明	下関市生涯学習ま ちづくり出前講座	下関市立 王司公民 館
2023.7	[講義] 内部障害リハビリテーション の最新知見	[講師] 水野博彰	山口県理学療法 士会ナイトセミ ナー	Web 開催
2023.7	腰痛予防教室	[講師] 月城一志 小林健治	下関市生涯学習ま ちづくり出前講座	下関市立 王喜公民 館
2023.9	腰痛予防教室	[講師] 阿部小夏 竹永秀平	下関市生涯学習ま ちづくり出前講座	下関市民 センター
2023.9	腰痛予防教室	[講師] 小林健治	下関市生涯学習ま ちづくり出前講座	リサイク ルプラザ
2023.9	急性期病院に入院した心不全 患者の入院中転倒を入院時パ ラメータで予測できるか?	水野博彰	日本呼吸・循環器 合同理学療法学 会学術大会 2023	東京都
2023.9	心臓手術前のサルコペニアリ スクと歩行自立の関連性	月城一志	日本呼吸・循環器 合同理学療法学 会学術大会 2023	東京都
2023.10	呼吸器管理が必要となった重 症 COVID-19 患者の臨床的特 徴とリハビリテーション	水野博彰	第 39 回山口県リ ハビリテーショ ン研究会	宇部市

	～ケース研究シリーズ～			
2023.10	COVID-19 患者におけるレッドゾーンでの離床遅延が退院時のフレイルを進行させる	月城一志	第 39 回山口県リハビリテーション研究会	宇部市
2023.10	一般演題	[座長] 水野博彰	第 39 回山口県リハビリテーション研究会	宇部市
2023.10	COVID-19 患者の ADL 低下に影響を与える要因についての検討	和田将平	第 34 回山口県作業療法学会	萩市
2023.11	糖尿病教育入院患者の身体的フレイルに影響を与える要因の検討	水野博彰	第 32 回山口県理学療法学会	下松市
2023.11	開胸心臓手術におけるサルコペニアスクリーニングと入院関連能力 (HAD) の関連	月城一志	第 32 回山口県理学療法学会	下松市
2023.11	右変形性膝関節症により内側開大式高位脛骨骨切り術、半月板縫合術、MCL 再建術を施行し、膝関節伸展制限の治療に難渋した症例	下郡明久	第 32 回山口県理学療法学会	下松市
2023.11	症例検討の作り方	[講師] 月城一志	第 32 回山口県理学療法学会 教育セミナー	下松市
2023.11	腰痛予防教室	[講師] 竹永秀平 下郡明久	下関市生涯学習まちづくり出前講座	下関市立栗野公民館
2023.11	腰痛予防教室	[講師] 鐘井光明 布村飛龍	下関市生涯学習まちづくり出前講座	教育センター
2023.11	腰痛予防教室	[講師] 小林健治 伊井智毅	下関市生涯学習まちづくり出前講座	リサイクルプラザ
2023.11	急性増悪をくり返す慢性心不全患者に対し、退院後に療養指導を継続し再入院の予防を図った一症例	平沼侑花	令和5年度領域別研修内部障害系理学療法症例検討会	Web 開催
2023.11	過活動による心不全急性増悪を繰り返す慢性血栓塞栓性肺高血圧患者に対し活動量計を用いて療養指導を行った一症例	阿部小夏	令和5年度領域別研修内部障害系理学療法症例検討会	Web 開催

2023.12	腰痛予防教室	[講師] 月城一志 布村飛龍 下郡明久	下関市生涯学習ま ちづくり出前講座	教育セン ター
2024.2	関節可動域治療の基本	[講師] 水野博彰	山口県理学療法 士会 定期理学 療法研修会	下関市
2024.3	急性期脳卒中患者のリスク管 理について	[講師] 月城一志	山口県理学療法 士会ナイトセミ ナー	Web 開催
2024.3	[講演] 緩和ケア病棟のリハビリ 一人ひとりの希望に寄り添う	[講師] 安部裕美子	令和5年度下関 市立市民病院緩 和ケア研修会	下関市立 市民病院

<論文>

発表年	表 題	著者	雑誌・巻・ページ
2023	心臓手術前のサルコペニアリスク スクリーニングと入院関連能力低 下（HAD）の関連	月城一志	理学療法やまぐち2巻1 号8-16